



学校だより 第1号
令和7年 4月
富山市立豊田小学校

社会の入口としての学校

校 長 吉野 哲

4月9日（水）に新1年生123名を迎え、全校児童768名で令和7年度の豊田小学校がスタートしました。保護者、地域の皆様には、日頃よりご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、私は、今年度本校に赴任してまいりました校長の吉野と申します。子供たちの明るく元気な表情から、充実した一年間にしたいという思いを感じました。豊田っ子の豊かな学びや健やかな成長のために、尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本校の学校教育目標は「仲間と学び 心豊かに 生き生きと生活する子供の育成」です。この学校教育目標の基、様々な教育活動を展開いたします。子供の明るい声が響き、笑顔あふれる学校にしたいと考えております。

ところで、子供たちは日々成長していることは言うまでもありませんが、子供の成長における学校の役割とは一体何なのでしょう。改めて子供の成長における学校の役割について考えます。

一言でいうと「学校は社会の入口」だと私は考えています。子供たちはやがて大人になり社会に出て働きます。（給料をもらうために）社会に出て働くと、様々な場面に出会います。（保護者の皆様も経験したことがあるのではないのでしょうか）例えば、自分の考えとは違う考えに従わなければならないことや、思ったより大変なことに直面し、想像以上に努力をしなければならないこと、理不尽に感じてしまうことなどです。それらのことに対して、新たな意味を見いだしたり、我慢してやり遂げたり、新しい提案をしたりしながら、自ら解決していくことが社会に出て働くことではないかと思います。

また、社会に出て働くということは、大なり小なり他者と関わることになります。ただ一人で完結する仕事はほとんどありません。そして、そこでは良好な関係性を構築することが必要になってきます。時には気が合わない相手がいるかもしれません。いつも自分と同種類の人間ばかりとは限らないからです。快、不快だけで判断し、自分の感情をセルフコントロールすることができなければ、他者との良好な関係を築ことができなくなります。このように、集団の中で他者との関係性を良好に保つことは、社会生活を送る上で重要な要素だと言えます。

学校では、各教科等の基礎的・基本的な学力をしっかりと身に付けた上で、社会に出ても通用する社会性を身に付けるようにしていきたいと思います。

幸い、本校は児童数も多く、多様な価値観に触れることができます。これは豊田小学校の「強み」（ストロングポイント）と言えるでしょう。子供たちが様々な関係の中から、社会性を身に付け、将来、社会に出て力強く生きていく姿を期待したいと思います。